

☆各教科等を合わせた指導～生活単元学習を例に～

「生活単元学習」って聞くけど
それって、教科なの？



いいえ、違います。

生活単元学習は、「各教科等を合わせた指導」という**指導の形態**です。
知的障がい特別支援学校の各教科、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の一部又は全部について合わせて授業をすることをいいます。

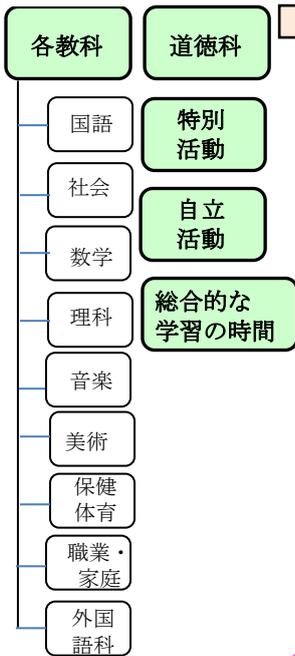


【各教科等を合わせた指導の考え方

* 知的障がいのある生徒が学ぶ中学部の例】

教えるべき

【指導内容】



各教科等別に指導

小・中学校の授業のイメージ

特に必要があるときは、

一部

例：国語・美術・保健体育

全部

各教科・道徳科・特別活動・自立活動

合わせて授業を行うことができる。

* 法的根拠：学校教育法施行規則第130条第2項

各教科等を合わせた指導

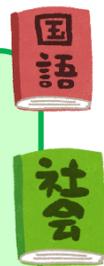
日常生活の指導

作業学習

生活単元学習

遊びの指導

* 主に小学部



指導内容は、**知的障がいの各教科等**です。つまり、生活単元学習などの指導形態で教える場合は、各教科等の目標や内容を知っていなければなりません。



「各教科等を合わせた指導」は、指導形態の一つです。日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習などがあります。**子どもたちの障がいの程度や実態に応じて、「各教科等を合わせた指導」ではなく、教科別に指導することも考えられます。**

知的障がい特別支援学級だから、必ず各教科等を合わせた指導を教育課程に入れなくてはならないものではないことに留意が必要です。**あくまでも、実態に応じて選択する指導形態です。**

* 1 詳しくは、I-2 ☆①『「特別支援学級の教育課程」の基礎知識』をご覧ください。

なぜ？「生活単元学習」等の指導形態で指導するの？



それは、知的障がいのある子どもたちの学習内容を身に付けていく時の学び方が関係するからです。

知的障がいのある児童生徒の学習上の特性*3

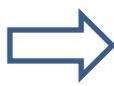
- ・ 学習によって得た知識が断片的になりやすい
- ・ 実際の生活の場で応用されにくい
- ・ 成功経験の少なさから、主体的に取り組む意欲が育ちにくい
- ・ 実際的な生活経験が不足しがちで、实际的・具体的な指導が必要

そのために、

実際の**生活に即した場面を単元化**していくことにより、**子どもたち自ら主体的**に学習に取り組むことができます。そのために、合わせた指導（分けない指導）が生まれてきた歴史的背景があります。

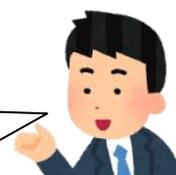
例えば

小学校
生活単元学習
「お店屋さんを开こう」



具体的な活動の中で、必要な知識や技能を習得する。
看板を書く「国語」／飾りつけ「図工」／近くの店のお店屋さんを調べる「生活」／品物の計算をする「算数」／友達の意見を取り入れる「道徳」／学級として目標に向かう力「特別活動」等

例から分かるように、知識がすぐに活用され、実際の生活での役立たせ方も知ることができます。そうすることで、生活経験の幅も広げることができ、「〇〇したい」「〇〇を実現させたい」と子どもの主体性を育てることができますよね。



各教科等を合わせた指導に当たっては、「身に付けさせたい力」を明確にしましょう。

授業を通して、子どもたちに「どんな力を身に付けさせたいのか」、各教科の目標や内容を明確にしていくことで、子どもたちの成長をより促します。また、単元全体や年間を通じて、各教科等の指導内容についてバランスを見ていくことも大切です。

活動を展開する時のポイント

各教科等を合わせた指導の特徴から、子どもたちがより「主体的な力が発揮」できるように、「子どもが必要としている力」と「教師が身に付けさせたい力」が同じになるように授業を作っていくことで、子どもたちは、生き生きと活動しながら学ぶことができます。

「教えたこと」を「学びたいこと」に変える！

* 3 知的障がいのある児童生徒にかかわる時は、I—2 ☆⑤『知的障がいのある児童生徒の学習上の特性を踏まえた教育的対応の基本』もヒントになります。